

「あそび」と文化

「あそび」と文化を考える～ヨハン・ホイジンガをてがかりにして

杉浦 恭 (愛知教育大学)

新しい時代に向けた「あそび」と文化について、これまでのあそび文化論、ここではヨハン・ホイジンガ (Johan Huizinga 1872-1945) をてがかりに考えてみたい。

1. ホイジンガのあそび文化論

ホイジンガによれば、「文化は、あそびにおいて、あそびとして、成立し、発展した」ということになる。あそびが文化の創造に果たした機能と役割について、中世の文化を例にあげて紹介したい。

また、ホイジンガのあそび文化論を文化史の観点から見ると、一貫して流れている考え方がある。それは、美しく生きたい夢や崇高な理想が、「あそび」を通して表現されたとき、豊かな文化が創られるというものである。これについても説明を加えたい。

2. 新しい時代に向けたあそびと文化の方向性

(文化創造とあそび心について)

*文化の創造には夢と理想、そしてあそび心が大切

*物質的価値と精神的価値のバランスが肝要

参考: 「あそび」を軽視する社会とその文化

(新しい時代における「あそび」の価値と意義について)

*個人の教養と社会における文化の形成を目指して

*個性化そして多様性をもった文化と社会の実現へ

そのためには、まず文化を「あそび」として享受することが大切であると考えます。そして、文化に親しみをもつことができる環境づくりが必要であろう。「あそび」を通しての自己実現と自己開発、そこから新たな文化創造が始まる。

3. 「あそび」研究を振り返って

本学会の過去 30 年における「あそび」研究を振り返ってみると、「あそび」を行動・意識の観点から研究したものや、指導・教育の観点から取り組んだ研究、また、環境・施設との関わりで見ている研究が多い。一方、あそび論そのもの、ましてや「あそびと文化」に関する原論・歴史的な研究となると、数少ないというか、今日ではむしろ稀でさえある。

数量的に「あそび」を捉えて分析する研究は確かに重要であるが、「あそび」そのものを考えてみる研究や、文化との関わりで捉えようとする研究も見直されてよいのではないだろうか。

参考文献

Johan Huizinga, Verzamelde werken I-IX, Tjeenk Willink Haarlem.

日本レジャー・レクリエーション学会、『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み』、『レジャー・レクリエーション研究』第 33 号-第 42 号